

会 議 録

1 附属機関の会議の名称 「みと好文カレッジ運営審議会」

2 開催日時 令和5年3月2日（木） 10時00分から11時30分まで

3 開催場所 水戸市総合教育研究所2階 研究室5・6

4 出席した者の氏名

(1) 委員 松橋義樹，田口米蔵，中庭陽子，市原良子，助川公継，森久美子，
小磯重隆，海老澤裕

(2) 執行機関 湯澤康一，島田顕範，菊池精一，橋本裕子，檜山紘大

5 議題及び公開・非公開の別

(1) 令和4年度みと好文カレッジ事業実施報告について（公開）

(2) 令和5年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について（公開）

(3) 令和5年度みと好文カレッジ事業実施計画（案）について（公開）

(4) その他（公開）

6 非公開の理由

7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人

8 会議資料の名称

(1) 令和4年度第2回みと好文カレッジ運営審議会

9 発言の内容

委員長 それでは、議事に入らせていただきます。

本日の案件につきましては、全て公開とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

それでは、(1)令和4年度みと好文カレッジ事業実施報告について、事務局から説明をお願いします。

執行機関 ((1)について、資料に基づき説明。)

委員長 ありがとうございます。ただいま(1)について事務局から説明がありましたが、御意見や御質問等がございましたらお願いします。

____**委員** 事業評価について、全体的にB評価である中、水戸市生涯学習サポーター活動の推進についての事業評価はCになっており、目標を達成できなかった部分があったということだと思のですが、評価・課題の欄を見ると、これが達成できなかったという記載がないので、C評価であるのであれば、課題の部分を明記しな

ければならないと思うのです。逆に課題がないのであれば、C評価ではなく、BやA評価になるのではないかと思います、その辺りはいかがでしょうか。

執行機関 C評価とした理由につきましては、水戸市生涯学習サポーターの人数が令和5年度末目標値で80人となっておりますが、令和4年度末見込みの57人と、今後登録予定の人数をあわせましても、80人に達しないということと、協働企画講座数が令和5年度末目標値では10講座となっておりますが、今年度は6講座しかできていないということがありましたので、C評価とさせていただきます。

____委員 これが課題だということをどこまで明記するのかという問題はあると思いますが、指標に対応する形で明記した方がいいと思います。

委員長 何か他にありますでしょうか。

____委員 訪問型家庭教育支援事業で、堀原小学校1年生世帯の全戸訪問をしたということで、評価もAとなっておりますが、これは全戸訪問ができたからAなのかということと、訪問できて課題が見えてきたところで、来年度、どのようなサポートが必要なのかということをお教えいただければと思います。評価のところには、訪問する人数が足りなくて教員OBが必要だというようなことが書かれているのですが、実際、47世帯が抱えている問題というのはどのようなものをお教えいただければと思います。

執行機関 評価をAとした根拠につきましては、全戸訪問を意識したということもありますが、相談の申込みを「いばらき電子申請・届出サービス」からでもできるようにして、前年度よりも相談件数が増えたということでAとしております。

また、堀原小学校での全戸訪問をしましたところ、現在、学校がなかなか家庭訪問をすることができなくて家庭の状況が把握できていない中、子どもの家庭生活に問題や心配な行動があったということが、支援員が訪問してわかったというケースが何件ありました。他には、課題としてですが、10分程度の面談になってしまうので、家庭教育の悩みやしつけのことの相談が1回では難しいという意見がありました。その一方で、訪問型家庭教育支援事業の周知ができたことで、何かあったときに相談ができる窓口があることを知って安心したというような意見もありました。

さらに、学校内での周知が不十分だったかと思ひまして、学校長会等では説明しているのですが、一般の教員にまで浸透しきれていない部分がありますので、今後、全戸訪問する学校につきましては、年度当初に職員会議に出席させていただいて、その場で事業を全教員に周知していきたいと考えております。

____委員 付け加えてですが、堀原小学校が全戸訪問の対象として選ばれた理由をお教えてください。また、この事業が、この1校の全戸訪問から、どのように展開しているのか、そこのビジョンがもっと見えるといいと思っています。

執行機関 堀原小学校を選定した理由ですが、教員OBとペアになって2名の支援員で訪問しているのですが、教員OBの支援員が2名しかおりませんので、2組で実施しなければならず、50世帯がモデルケースとしては限界かということがありました。併せて、当時の堀原小学校の校長が県の家庭教育推進委員会の委員ということもあり、学校長会で協議して選定させていただきました。

____委員 この先、対象校をもっと増やしていく予定はありますか。

執行機関 来年度は、東部と西部ということで、城東小学校と赤塚小学校の2校で実施する予定になっております。今のところ、教員OBが2名しかおりませんので、やはり2校の合計で50世帯程度ということで、学校長会で協議して選定させていただきました。

___委員 ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

委員長 ありがとうございます。その他に、御意見、御質問等ありますでしょうか。

副委員長 予算額に対して、決算見込み額が非常に少ない項目があると思うのですが、これですと予算が消化できていないという印象を受けまして、次年度に影響するのではないかと心配になるのですが、これは何か事情があったのでしょうか。

執行機関 予算のうち大半を占めているのは講師謝金なのですが、工夫したり、たまたまということもあるのですが、謝金なしで講師を呼ぶことができたりしたことが多々あり、決算見込み額が少なくなっております。

副委員長 次年度は予算を減らされる等、次年度への影響はありますか。

執行機関 次年度の予算は確保しておりますので、影響はありません。

副委員長 わかりました。

委員長 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

(発言なし。)

委員長 他に意見がないようであれば、次に進みたいと思いますがよろしいでしょうか。

それでは(2)令和5年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策(案)について、事務局から説明をお願いします。

執行機関 ((2)について、資料に基づき説明。)

委員長 ありがとうございます。それでは(2)について、御意見、御質問等ありましたら、お願いします。

___委員 22ページの事業評価の推進についてですが、「事業評価を実施していく」とあり、昨年度から文言が変わっておりますが、具体的な内容として、何が変わったのかお聞かせいただければと思います。

執行機関 一昨年度までは事業評価を実施しておらず、昨年度初めて事業評価を実施しました。これからは毎年事業評価を実施していくという意味で、文言を「事業評価を実施していく」とさせていただきます。

___委員 「パパといっしょに夢らんど、ほっとひといきママたいむの開催」という項目は、これまでは別々の項目だったと思うのですが、これは意味があってそうしていたのだと思うのですが、今回は何故一緒にしているのでしょうか。

執行機関 これまでは「ほっとひといき夢らんど」というひとつの事業を実施してきましたのですが、これからは、父親のみを対象とした「パパといっしょに夢らんど」を開催することとして、もうひとつ、保護者を対象とした「ほっとひといきママたいむ」を開催することにしたということで、これまでひとつだった事業をふたつに分けたというような意味合いで、このようにしました。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

___委員 「パパといっしょに夢らんど」ですが、今年度、パート1は土曜日に開催したが、パート2は火曜日に開催予定だったところ、応募してきた人数が少なくて中止にしたということですが、それはそうだろうなという感じがします。いろいろなイベ

ントを開催するにあたって、曜日や時間、場所は重要だと思うのですが、次年度以降、曜日はどのようにするのか考えはあるのでしょうか。

執行機関 今年度、パート2を火曜日に設定した理由は、理容師や美容師、車の営業の方たち等は、火曜日は出勤しないと思ったからなのですが、募集をかけてみたら実際は集まらなかったということです。来年度は、曜日はひとまず変えないで置いて、子どもの対象年齢を、2歳児のみだったのを2～3歳児に広げてみようと思っております。それでも集まらなければ、やはり曜日が原因だろうということで、曜日を変えようと思っております。

____**委員** 「パパといっしょに夢らんど」の今年度の事業実施報告を見る限り、応募者が多かったパート1もすべて土曜日の3回講座なので、同じ人が3回とも申し込んだのだろうと想像できますが、他の事業を見ても、同じ曜日で複数回実施するパターンが多くて、お願いする講師の都合もあるのかもしれませんが、1回だけでも曜日が異なれば、その1回だけは「パパといっしょに夢らんど」に参加できるのという人もいると思います。毎回同じ曜日だけ参加できる人を対象として募集をかけるのか、曜日を変えて1回だけでも参加できる人を対象として募集をかけるのか、そういう曜日設定というのは重要だと思うので、この辺も含めて御検討いただけたらいいかと思います。同じ曜日で揃えた講座を作る必要はないと思います。

執行機関 「パパといっしょに夢らんど」は、3回とも参加できる人という条件を付けてしまっておりますので同じ曜日で揃えておりますが、____委員の意見も踏まえまして、今後検討していきたいと思っております。

委員長 ありがとうございます。検討するというので、今後お願いします。
他にどうでしょうか。

____**委員** 今の件ですが、男性が育児休暇を取るという時代ですので、3回セットではなくて、1回だけでも申し込めるようになっていけば、1回だけなら頑張って参加してみようかと思うお父さんはいると思います。

____**委員** 1回だけでもお父さんを参加させようということですね。

____**委員** そうということです。特に学校は、育休を取ってくださいと言っても、絶対に育休を取らないです。若い世代、これからお父さんになるという世代の人は、育休を取ることにはあたりまえだという考えに追い込みたいのですが、学校も人がいないのでなかなか取れないのです。そういう事情を考えると、お父さんを少しでも育児に向かわせる方法を考える必要があると思いました。ですので、3回セットではなく、1回ずつの募集を御検討ください。

____**委員** 私もどうしてここにこだわっているのかといいますと、他の講座も重要ですが、お父さんを対象とする講座というのは新しいチャレンジだからなので、少しでもお父さんを引き込む方法を御検討いただければと思うのです。

執行機関 ありがとうございます。検討します。

委員長 ありがとうございます。後はいかがでしょうか。
(発言なし。)

委員長 それでは、もし他に何かあれば、最後にまた時間を取りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続いて(3)令和5年度みと好文カレッジ事業実施計画(案)について、事務局か

ら説明をお願いします。

執行機関 (3)について、資料に基づき説明。)

委員長 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明について御意見、御質問等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

副委員長 「ほっとひといきママたいむ」について、今年度は人気があったから次年度は回数を4回にするということですが、同じ人が4回受講するので、現状を踏まえると、応募する人が非常に多くなり、受講したくても受講できない人が多く出てくることになるだけだと思います。ですから、もう少し受講を希望する多くの人が受講しやすい枠組みが必要ではないかと思うのです。回数を4回に増やすことよりも、受講を希望する多くの人が受講できるような枠組みが必要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

執行機関 パート1を受講した人はパート2を受講できないようにはしているのですが、加えて、今年度より募集人数を増やす予定でいます。後は、御意見を参考に今後考えていきたいと思っています。

委員長 よろしいでしょうか。他にはいかがでしょうか。

___委員 令和3年度から令和4年度にかけて、新型コロナウイルス感染症による制限も少しずつ緩和されてきたので、講座の参加者も増えてきているという印象がありますし、令和5年度はさらに拡大していくのではと思うところもありますので、人数制限の部分に関しては、私も考慮していただければありがたいと思っているところです。

また、訪問型家庭教育支援事業についてなのですが、今年度のモデルケースとしての堀原小学校の全戸訪問から、来年度以降、全戸訪問を拡大していくために教員OBの支援員を増やしていくということですが、どれくらいの計画で増やしていくって、最終的にどれくらいの人数まで増やすのかという、中長期的な戦略があるのかどうかをお聞きしたいです。もうひとつですが、自分の家庭でどんな課題があるか顕在化しているケースは少なく、どちらかというところと潜在化していることが多いと思うのです。さらに、客観的に見ると問題だと思うけれど、保護者の方が問題だと認識していないケースも多いと思うのです。ですので、10分程度の訪問ではなかなか難しいとは思いますが、そういった部分をどこまで掘り下げていくのかということは、支援員に丸投げではなくて、技術的な部分等について共有していく必要があると思うのですが、その辺りについてどのようなプランを持っているのかお聞きしたいと思います。

執行機関 支援員の人数については、全戸訪問は今回が初めての試みだったので、今回の反省点を踏まえて少しずつ増やしていく計画ではあります。中長期的には、現在、支援員は全体で7人なのですが、これでは足りないのです、1年に1～2人くらいずつ増員できればと思っているのですが、予算の部分もありますので、財政や政策部門とも協議しながら少しずつ拡大していきたいと思っています。それに伴い、全戸訪問も拡大していきたいと思っております。そして、保護者にとっては問題だと思っていないが、支援員にとっては問題だと感じたケースは確かに何件かありました。ただ、こちらから積極的に働きかけるというよりは、何かあったらこういった事業があるので相談してくださいという、事業のPRの方をして

いきたいと思っています。後は、どういったやり方で今後進めていくかということについて、学校や福祉部門と連携していきたいと思っています。

また、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後に、就学時健康診断時にブースを設けて、健康診断に来た保護者全員から話を聞くというのはどうかということを県から提案されていますので、こういったことも今後検討していきたいと思っています。

____委員長 心理系の仕事をしている人から話を聞くと、子どもが問題を抱えていてSOSを出していても、親がブロックしているケースは多く、受け身であると被害が広がっていくことが多いということなのです。後は、学校の先生に協力を要請するということですが、学校の先生は働き過ぎなので、これ以上先生の仕事を増やしてしまうと、先生が大変になってしまうと思います。ですので、先生と情報共有は必要だと思うのですが、その辺は行政の方でカバーしてあげてということを御検討いただいた上で、子どもたちが住みよい、健やかに成長できる環境を作っていただければと思います。

委員長 ありがとうございます。他に何か御意見、御質問等いかがでしょうか。

____委員 事業を計画することなのですが、日時や内容もちろん重要なのですが、個人的には「場所」に興味があります。場所で集まる人が変わってくると思っておりまして、例えば、市民センターでばかりではなく、お金がかかるかもしれませんが、街中の空きテナントで実施すれば、新規性を感じてもらえるかもしれませんし、集まってみようと思ってもらえるかもしれません。しかし、駐車場がないので、集まる人のタイプも変わってくるかもしれません。ですが、タイプが変わってくるということは、新しい受講者と接触ができて、次の市民センターでやる講座に呼び込むことができるかもしれません。もちろん、日時や曜日、内容を良くしていくことで新規の受講者は来ると思うのですが、いつもの場所でやるというのではなく、新しい場所を御検討いただければ、新たな一歩になるのではと思います。

委員長 ありがとうございます。後はいかがでしょうか。
(発言なし。)

委員長 (3)だけではなく、全体を通してでもかまいませんので、いかがでしょうか。

副委員長 感想なのですが、水戸市生涯学習サポーター協働企画講座は、非常にいい企画をされているという印象を受けます。健康や歴史等、サポーターの方たちの企画が、皆さんの興味を引くような企画になっていると思いますので、引き続きやっていていただければと思います。

委員長 感想ということでしたが、他の委員さんもいかがでしょうか。

執行機関 事務局から追加なのですが、事業計画の定員については、現在の会場の利用制限に基づいた定員になっております。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後、もし市有施設の利用制限が緩和されることになれば、それに従って定員を増やしていこうと思っています。

委員長 後はいかがでしょうか。

____委員 様々な事業をやられていると思いますが、これらの事業は、SNSではどのように発信しているのかお答えいただきたく思います。

- 執行機関** 水戸市のホームページへの掲載はもちろんなのですが、LINEを利用したり、Twitterで発信したりしております。
- ____委員 水戸市のホームページやSNSの中で発信しているのですか。
- 執行機関** はい。
- ____委員 事業によってある程度、世代やターゲットがはっきりしていると思うので、子育てなり生涯学習なり、分野を細分化しての発信を検討する余地があると思います。
- 委員長** 後はいかがでしょうか。
- ____委員 水戸市は海外で活躍できる子どもを育てるということで、学校としても英語教育やICT、読解力を柱にしているのですが、これからの時代は多様性を受け入れる時代になっています。水戸市は外国人がたくさん住んでいる街だと思います。国際交流センターには外国人がたくさん来ますが、外国人が日本人とどこで交流するかを考えた場合、交流の場がこのような講座の場にあればいいのではと思いました。国際交流センターとの連携も必要かもしれませんが、外国人を受け入れて、子どもたちが、肌の色も目の色も違う人たちとあたりまえに交流していける街になることができると期待があるので、その辺も御検討いただければと思います。
- 委員長** ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。
- ____委員 先程の説明では、今年度は何か所かの市民センターでスマホ講座を行ったが、来年度は全部の市民センターでスマホ講座を行いたいということでした。これからは、行政手続き等いろいろな面で、年配の方もスマホを使用せざるを得ない時代になってくると思いますが、各市民センター1回だけの講座ではなかなか習得できないと思うので、回数を増やす等した方がいいと思います。この辺の、今後の考え方についてお聞きしたいと思います。
- 執行機関** 「はじめてのスマホ体験講座」については、今年度、全部の市民センターで開催しているのですが、確かにおっしゃる通り、1回だけの講座では覚えきれないという意見もあるので、デジタルイノベーション課と連携して、今後、検討していく課題となっております。
- ____委員 今年度、全市民センターでやったのですか。
- 執行機関** 資料に載っているのはマイナンバー等に特化した講座で、これらの他に、全市民センターで「はじめてのスマホ体験講座」をっております。
- ____委員 特化した講座も、全市民センターでやる必要があると思います。
- 執行機関** 検討してまいります。
- 委員長** ありがとうございます。後はいかがでしょうか。
- ____委員 これまで皆さんから出た御意見と同じような考えを私も持っているのですが、講座の開催について、子育て支援の講座にしても、他のスマホ講座等にしても、同じ内容で回数を増やせば、1回だけ指定された日程のときは行けなかった方も別の日程で参加できたりして、全市民の方がよりよくいろいろなことが学べる機会になると思います。たくさんの種類の講座を開催するのではなく、ひとつの講座を日程や場所を変えてたくさん開催するのです。特に場所は私も重要だと感じており、子どもが小さかった頃、参加したい内容の講座があったのですが、自

宅近くで開催する講座だったら参加できたのですけれど、自宅から遠い場所での開催だったので、小さな子どもを連れて行くのに抵抗があって、参加するのをあきらめてしまったということがありました。同じ講座を市内全域で開催するように場所や日程を組んでいただければ、小さなお子さんを連れて荷物がいっぱいのお母さんたちも行きやすくなるのではと思います。さらに、車がない人も身近にいるのですけれど、外出は公共交通機関を使うので、講座開始が10時からとなると、それまでには行けないので、参加したいがあきらめるしかないというような声も聞きます。例えば午後の方が動きやすいという方も多いので、開催について、午前の部、午後の部があるだけでも参加しやすくなるのではないかと感じます。

委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。感想でも結構です。
(発言なし。)

委員長 それでは私からなのですが、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行するというのが、今後の大きな変化になると思います。今までマスクをして集まっていたのが、マスクを外して集まるようになるのか等、様々なことで来年度はどの程度まで内容を広げていくことができるのか、ひとつのポイントになってくるのかと思っています。先程、時間や場所、参加人数等を考えていただきたいという意見がありましたが、昨年度から今年度の流れが、来年度はどのように変わっていくのか期待したいところです。よろしく願いいたします。

それでは、他に特になければ、(4)その他になります。事務局から何かありませんでしょうか。

執行機関 特にありません。

委員長 それでは、以上で、全ての議題が終了いたしました。委員の皆様には、円滑な進行に御協力をいただきまして、ありがとうございました。